

2019年3月29日

『isee! “Working Awards”2019』報告書

概要

公益社団法人 NEXT VISION では、特に就労に注力した事業として、「isee! “Working Awards”」を実施しています。

今年で3回目となる「isee! “Working Awards”」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。

応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。

本年の応募総数は、38件で昨年よりも1件増でした。内訳は、事例部門が13件、アイデア部門が25件でした。

審査の結果、事例部門の入賞が9件、事例部門の入選が3件でした。また、アイデア部門の入賞が5件、アイデア部門の入選が11件でした。

募集期間:2018年7月2日(月)~10月31日(水)

【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。

【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。

(例:周囲の協力を活用した事例、経験を強みとした事例、最新技術を活用した事例など)

【アイデア部門】においてはどなたでも応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。

審査員からのメッセージ

【審査委員会議長】

三宅 養三(公益社団法人 NEXT VISION 代表理事)

多様な分野の方々に審査員になっていただくことで、公平かつ独自性のある審査を行うことができると考えており、本アワードの趣旨にご賛同いただき委員に就任してくださった7名の委員のみなさまに心より感謝いたします。私が審査に直接関わることはありませんが、多種多様な事例やアイデアの審査に議長として関われることを楽しみにしています。

【審査員】(五十音順)

大胡田 誠(弁護士法人つくし総合法律事務所 東京事務所 弁護士)

チャーリー・チャップリンの映画の中に、「人生に必要なのは、勇気と想像力、それとほんのちよつとのお金だ。」というセリフがあるそうです。これは、視覚障害者の就労を成功させるためにも必須のものではないでしょうか。

私は、この賞で、応募して下さった皆さんの「勇気」と「想像力」を称え、そして、それを「ほんのちよつとのお金」に結びつける応援ができたと思っています。

坂本 賢志(株式会社アシックス スポーツ工学研究所 IoT 担当マネージャー)

人は視覚、聴覚(自動車の接近検知など)そして足裏の触覚を活用して「歩行動作」を行っています。視覚に障がいを持たれる方は、足りない情報を補うために足裏の感覚がより敏感になったと聞きました。靴づくりメーカーとして大変興味深いお話しです。障がいがあっても、他の感覚を最大限に活用されている、前向きな事例をお聞きするのが楽しみです。

高見 俊雄(神戸市保健福祉局障害者支援課就労支援担当部長)

障害を持つ方々の希望や特性が活される多様な働き方の創出と、就職した方々が働き続けられる環境づくりが大切だと思います。視覚障害の方々のそれぞれの特性に応じた働き方について、想像力あふれる提案を期待しております。

竹中 ナミ(社会福祉法人プロップ・ステーション理事長)

子どもの頃から友人に弱視や全盲の方がたくさんおられ、「目で判断する私」と、違っ

た能力に驚かされることが多々ありました。

今、プロップ・ステーションでも全盲の青年が活躍していますが、視覚に限らずどんな障害も、本人ではなく環境の不備でその人の持てる力が発揮されないという残念な状況が生まれます。

プロップ・ステーションが目指す「ユニバーサル社会」というのは、全ての人々が持てる力を発揮することができ、かつ支え合うことのできる社会ですが、その実現には、医療、教育、科学技術、社会制度、政治、習慣・慣習などなど、様々なものが「一人一人の力を生かす方向」に進化する必要があります、日本社会はまだ、その途上やと思います。

「isee! “Working Awards2019”」で、ユニバーサル社会への道を拓く、多くの知見に出会えることを楽しみにしています！！

津田 諭(社会福祉法人日本ライトハウス 視覚障害リハビリテーションセンター 顧問)

視覚障害があってもご自分の能力を生かして社会に貢献している方はたくさんいらっしゃると思います。お一人お一人の事例を皆で共有することで、社会に活力を与えることができると信じます。

初瀬 勇輔(東京中小企業家同友会 多様な働き方推進委員会委員)

アワードも第三回目となりました。毎年、思っても見なかったアイデアや事例が飛び出し、視覚障害者が仕事をしていくことについて明るい希望をみさせてもらっています。今回も旨を躍らせてくれるわくわくするようなご応募をお待ちしています。

細谷 崇(神戸公共職業安定所 雇用対策部長)

平成 30 年 8 月時点でハローワーク神戸での職業相談の結果、身体障害者のうち約 10%が視覚に障害の持った方が就労されており、また、視覚に障害持った求職中の方は身体障害者の約7%を占めております。視覚障害者の就職件数は他の身体障害者に比して少ない状況ですが、社会で活躍されている方も少なくありません。コンテストには、特に中途視覚障害者の社会参加を促進する事例やアイデアの応募を期待しています。

審査基準

isee! “Working Awards”の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、公益社団法人 NEXT VISION よりアワードを贈るものとします。

よって、アワード名はその内容に合わせて変更・追加する場合があります。

賞の紹介

受賞者に「就業者=Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的として MVP(Most Value Player)表彰の要素を含ませ、「isee!運動」の i.s.e の 3 文字を使い「MIP 賞」「MSP 賞」「MEP 賞」「METP 賞」を設け

ました。

【就労事例部門】

●MIP 賞

Most Inclusive Player 賞(周囲の協力を活用した事例)

●MSP 賞

Most Strength Player 賞(経験を強みとした事例)

●MEP 賞

Most Effort Player 賞(継続的な努力を重ねた事例)

●METP 賞

Most Edgy Technology Player 賞(最新技術を活用した事例)

【アイデア部門】

●価値転換賞

障害(弱み)を強みとする発想転換のアイデア

●環境整備賞

ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア

●ビジネスプラン賞

実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア

事例部門入賞者

(9名)

No	応募者	種別	タイトル	受賞名
1	鈴木佐知子（盲女美術家 SACHIKO）	個人	盲女美術家 SACHIKO が提案するデザイン ～晴眼者との協働によるビジネスの実現～	MIP 賞
2	島袋 勝弥	個人	高専教員としてサバイバルする ～支援環境の整備と自己工夫～	MIP 賞
3	岡本 さやか	個人	少しの工夫とアイデアで、お料理、お菓子 作りの楽しさをしてもらいたい。	MSP 賞
4	(有)オフィス Serendipity	団体	患者経験を活かして医療コミュニケーション学を学び、医療・教育に特化した コーチとして日本の医療界・教育界に貢献	MSP 賞
5	前田 憲志	個人	英語講師や教材開発の経験を活かし、 「視覚情報サポートラジオ」を開設。	MSP 賞
6	吉永 智子	個人	英会話スクールの経営と講師 ～中途半端♪視覚障害者～	MEP 賞

7	奥沢 美砂	個人	視覚障がいの方の社会参加を後押し 美容情報「おしゃれなひととき」の制作	MEP 賞
8	鹿島 佑太	個人	メガネ型端末を活用した仕事の幅の広がり と負担の軽減について	METP 賞
9	ブラインドオン ラインサービス	団体	視覚障害者が在宅、オンラインで働く仕組み ブラインドオンラインサービス	METP 賞
事例部門入選者 (3名)				
1	川口育子	個人	見えないからこそ、発見できたこと	入選
2	NPO 法人視覚障 がい者ネットワ ークコトリナ	団体	視覚障がいと両手の障がい。iPhone で宣 伝部長	入選
3	大川 和彦	個人	公共図書館における障害者サービスに携わ る意義	入選

アイデア部門入賞者（5名）				
No	応募者氏名	種別	タイトル	受賞名
1	岡本 さやか	個人	講師は視覚障害者。「手軽なアイデアクッキング」の開催	価値転換賞
2	森 雅子	個人	視覚障害者のための家電ソムリエ	価値転換賞
3	大橋 正彦	個人	isee!“Working Awards”支援者部門の新設	環境整備賞
4	Convergence Lab.	団体	カメラで撮った人物や風景を音声と文章で 教えてくれるスマホアプリ Kagura	ビジネスプラ ン賞
5	otomo	団体	視覚障がい者の挑戦を支援する「otomo ブラインドスタートアップ応援プロジェクト」	ビジネスプラ ン賞
アイデア部門入選者（11名）				
1	本間 英一郎	個人	コールセンター業務研修・模擬業務体験 働ける実感を体験しよう！	入選

2	近畿ロービジョ ン研究会	団体	通勤オタスケ隊	入選
3	NPO 法人視覚障 がい者ネットワ ーク コトリナ	団体	だけじゃない 同行援護 DAKEJANAI GUIDE by コトリナ	入選
4	株式会社美キャ リア	団体	視覚障がい者だからこそその強みを発揮し、 多くの選択肢を持てる社会へ	入選
5	前川 浩一	個人	タブレット型ロービジョンサポートデバイ ス	入選
6	神田 信	個人	合理的配慮を受けやすい環境創り 視覚障害 お仕事お助け隊 創設構想	入選
7	水野 友美	個人	水引で新たな可能性 ～視覚障害者の職域 拡大、そして自立へ～	入選
8	大窪 美緒	個人	Kahei&Kaunto	入選
9	Nail Le Braille	団体	仕事の選択肢をマッサージやパソコンから 販売へ！！	入選
10	山本 潤	個人	心の芽で世の中を動かす	入選
11	MDSi サポート	団体	音声コードを活用した情報バリアフリー	入選

《isee! Working Awards 2019 発表・表彰式》

日時:2019年2月9日(土)13:30~15:30(受付は13:00から)

場所:神戸アイセンター Vision Park

神戸市中央区港島南町2-1-8 2F

参加者は、82名(うち視覚障害者47名)、スタッフ・ボランティア21名、計103名

プログラム:

13:30~13:40 開会挨拶ほか

主催者挨拶 代表理事 三宅養三

日本財団挨拶 日本財団 ソーシャルイノベーション本部

国内事業開発チーム 福田光稀様

13:40~14:10 受賞者発表と審査員の講評

受賞者を発表し、表彰式に出席された次の5名の審査員から講評をしていただきました。

坂本 賢志(株式会社アシックス スポーツ工学研究所 IoT 担当マネージャー)

高見 俊雄(神戸市保健福祉局障害者支援課就労支援担当部長)

竹中 ナミ(社会福祉法人プロップ・ステーション理事長)

津田 諭(社会福祉法人日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター顧問)

初瀬 勇輔(東京中小企業家同友会 多様な働き方推進委員会委員)

14:10～15:20 表彰及び受賞者とのトーク

出席された受賞者に賞状を授与し、お一人ずつ応募内容を発表していただきました。

出席された受賞者は以下の19名でした。

入賞:鈴木佐知子、島袋 勝弥、岡本 さやか、(有)オフィス Serendipity(鱸伸子)、吉

永 智子、奥沢 美砂、鹿島 佑太、ブラインドオンラインサービス(野々垣美名子)、

森 雅子、大橋 正彦、Convergence Lab.(木村優志)、otomo(鈴木貴達)

入選:近畿ロービジョン研究会(小谷真弘)、株式会社美キャリア(西村由美)、前川

浩一、神田 信、大窪 美緒、山本 潤、MDSi サポート(井上直也)

15:20～15:30 閉会挨拶

理事 高橋政代より閉会の挨拶を行いました。

閉会后、受賞者全員で集合写真を撮影しました。



おわりに

今回で3回目の募集でしたが、視覚障害者の就労事例の応募数の伸び悩みとなりました。アイデアについては増加しましたが、事例は既に1回、2回と応募していることで新たな事例該当者に本アワードの情報が伝えられていないことが考えられます。また、応募することを躊躇している実態があるのではないかと考えられます。

isee! "Working Awards"の案内チラシに音声コード(uni-voice)を印刷することで、

印刷物を直接読めない視覚障害者にも情報が伝わるように対応しました。アイデア部門でも音声コードを印刷物に入れるとのアイデアがありましたが、音声コードの印刷は対応可能な合理的配慮として有効な手段であると思います。

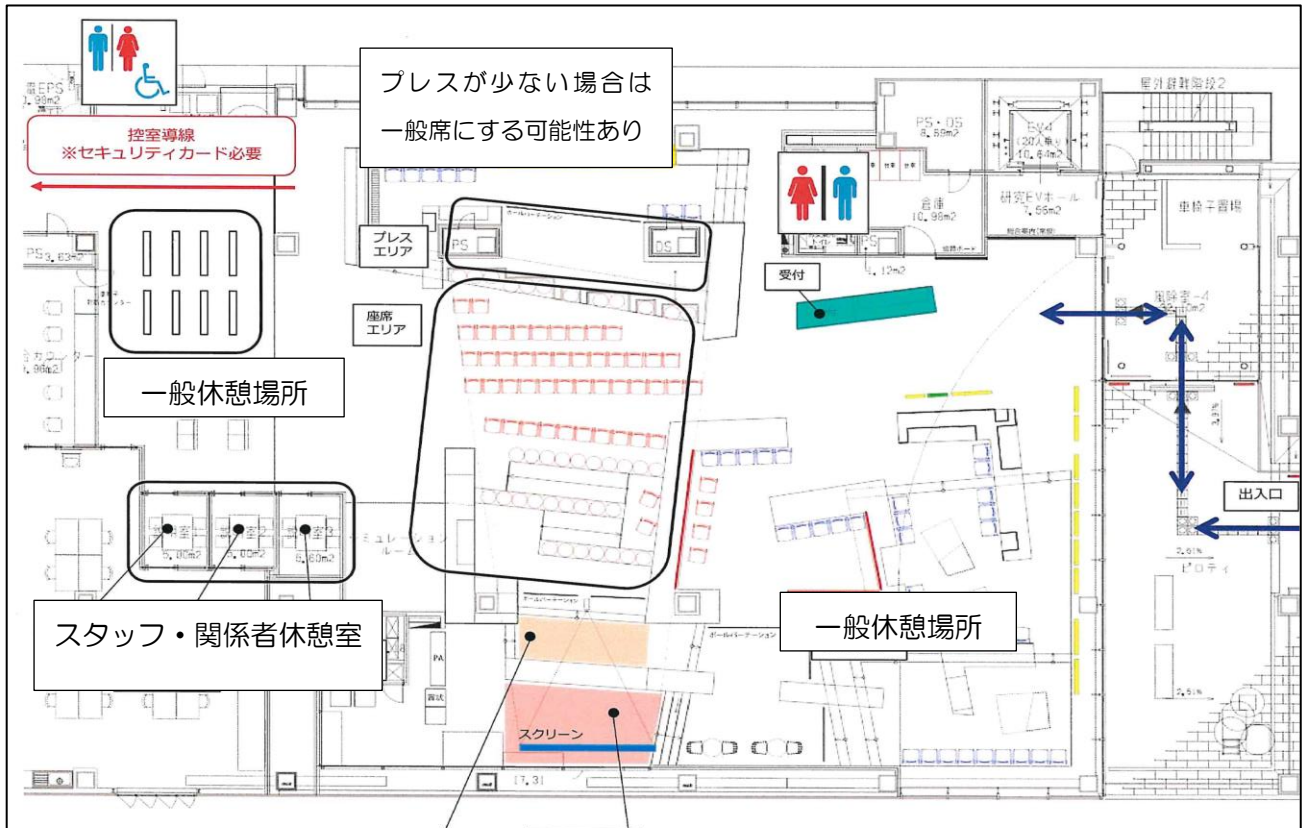
本年の表彰式では受賞者本人から受賞内容の紹介をしていただいたことで、より発表者の思いを伝えることができ、参加者からの感想としても昨年の表彰式よりも充実していたと好評でした。

また、事例とアイデアの内容、審査員のコメントを冊子にまとめた就労事例・アイデア集を配布したこともよかったとの声が聞かれました。広く本事業の内容を知ってもらうために冊子の配付は、目標達成において有効な方法であったと思います。

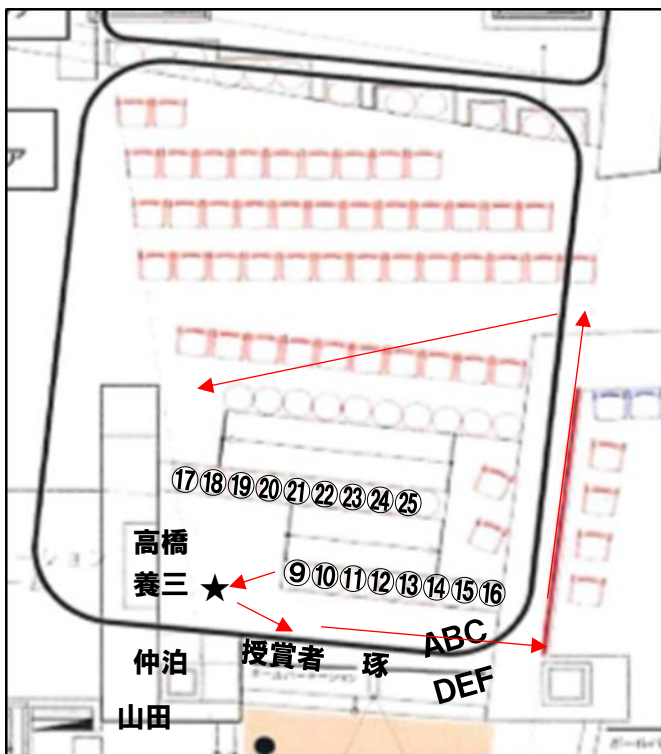
今後の募集においても就労事例・アイデア集を活用し、応募の数を増やすために生かしたいと考えています。

最後になりますが、本事業の実施に当たり日本財団から助成をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

《会場図》



isee! Working Awards2019 《座席図》





isee! “Working Awards”

2019

視覚障害者の“就労”に関する事例&アイデア募集

募集期間：平成30年7月2日（月）～平成30年10月31日（水）

応募方法：●E-mail visionpark@nextvision.or.jp

●郵送先 〒650-0047 神戸市中央区港島南町2-1-8神戸アイセンター2F
公益社団法人 NEXT VISIONアイシーワーキングアワード係

●FAX 078-304-4466

※「アイシー運動」公式HP <http://isee-movement.org/> のアイシーワーキングアワードのページより応募用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メール・FAX・郵送のいずれかの方法でお送りください。

※郵送の場合は10月31日（水）必着。

メール、FAXでの応募は10月31日（水）24時00分（日本時間）受付分まで有効。

主催：公益社団法人 NEXT VISION

助成：日本財団

審査基準

isee! “Working Awards” の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、NEXT VISIONよりアワードを贈るものです。よって、アワード名はその内容に合わせて変更・追加する場合があります。

募集内容

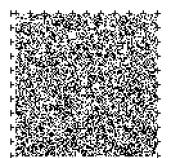
【事例部門】視覚障害者がどのように働いているのか・企業で活躍しているのかの事例。ロールモデルとして他企業での普及を目指します。

【アイデア部門】どのようにすれば働けるのか・どんな仕事や分野ならば活躍できるのかのアイデア。審査終了後に応募者自らが事業化などに関与する意志の有無を確認するなど、事前にヒアリングを実施する場合があります。

※【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募者は個人、企業、団体、グループなど問いません。

※【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。

※【アイデア部門】においては、どなたでもご応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。



表彰

【事例部門】は、就労事例を isee! 運動ホームページで紹介します。特に注目する事例については、審査員からのコメントとともに別途ご紹介することがあります。また、【事例部門】として応募された場合も、【アイデア部門】として表彰させていただく場合があります。

【アイデア部門】では「価値転換賞」「環境整備賞」などの表彰を行う予定ですが、審査の段階で変更となる場合があります。

なお、表彰式につきましては、平成31年2月9日（土）にアイセンター内のビジョンパークで予定しております。

【事業化等の支援】

優秀な就労アイデアについては、応募者自らが事業化に関与する可能性も含め、公益社団法人 NEXT VISIONや協力企業、機関・団体とともに事業化・商品化などアイデアを実現するための支援のあり方について応募者と協議します。

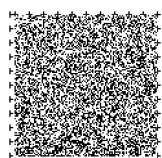
【注意事項】

- 1.【アイデア部門】においては、オリジナルでコンテストやそれに類するものに未発表のものに限ります。
- 2.同一応募者による【事例部門】【アイデア部門】の両部門への応募が可能です。
- 3.労働関係法令に関する重大な違反がないことおよびその他の法令上社会通念上、表彰にふさわしくないと判断される問題を起こしていないことを応募の条件とします。
- 4.反社会勢力と認められる個人・団体からの応募は、公益社団法人 NEXT VISIONおよび審査委員会が、コンテスト運営上支障があると認めた場合は応募をお断りする場合があります。また、審査後であっても受賞を取り消すことがあります。
- 5.応募の内容について他者の著作物（画像、データ等）が含まれる場合は、応募者の責任において事前に承認を得るなど適切な処理を行ってください。
- 6.応募者は応募内容の中に第三者が知的所有権の権利を有し、法的に保護されているアイデアを利用していないことを事前に確認してください。【事例】については事実と反しないことを約束してください。
- 7.応募内容の著作権に関しては、応募の時点で主催者に帰属するものとします。
- 8.応募内容アイデアの知的所有権は応募者に帰属します。
- 9.表彰される【事例部門】【アイデア部門】は公益社団法人 NEXT VISION ホームページ、isee! 運動ホームページで掲載するなど各種広報媒体にて広く公表します。
- 10.アイデアの事業化、商品化の場合の権利は主催者に帰属しますが、必要に応じて応募者と相談の上、決定します。
- 11.審査についての個別のお問い合わせには応じられません。
- 12.応募書類の返却は行いません。



私達は「isee! “Working Awards”」を通して、一人でも多くの方に視覚障害者が持つ能力と可能性を知ってもらい、企業、社会、市民との連携・理解が深まることを願います。

お問い合わせ



公益社団法人 NEXT VISION
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2-1-8神戸アイセンター2F
E-mail : visionpark@nextvision.or.jp
TEL : 078-304-4455

コンテスト isee! “Working Awards 2019”応募要項

募集内容

- ・【事例部門】
- ・【アイデア部門】

【事例部門】【アイデア部門】ともに業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。

【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。

(例：周囲の協力を活用した事例、経験を強みとした事例、最新技術を活用した事例など)

【アイデア部門】においては、どなたでもご応募できます。具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。

応募期間

平成 30 年 7 月 2 日（月）～平成 30 年 10 月 31 日（水）

郵送の場合は平成 30 年 10 月 31 日（水）必着。

メール、FAX での応募は平成 30 年 10 月 31 日（水）24 時 00 分（日本時間）受付分まで有効。

応募方法

応募用紙に必要事項をご記入の上、メール、郵送または FAX で下記までお送りください。

連絡先

E-mail : visionpark@nextvision.or.jp

郵送先：〒650-0047 神戸市中央区港島南町 2-1-8 神戸アイセンター2F

公益社団法人 NEXT VISION アイシー ワーキング アワード係

FAX : 078-304-4466

今後のスケジュール

- ・応募開始……平成 30 年 7 月 2 日（月）
- ・応募締切……平成 30 年 10 月 31 日（水）
- ・発表式……平成 31 年 2 月 9 日（土）

審査基準

isee! “Working Awards”の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、公益社団法人 NEXT VISION よりアワードを贈るものとします。

よって、アワード名はその内容に合わせて変更・追加する場合があります。

注意事項

1. 【アイデア部門】においては、オリジナルでコンテストやそれに類するものに未発表のものに限ります。
2. 同一応募者による【事例部門】【アイデア部門】の両部門への応募が可能です。
3. 労働関係法令に関する重大な違反がないことおよびその他の法令上社会通念上、表彰にふさわしくないと判断される問題を起こしていないことを応募の条件とします。
4. 反社会勢力と認められる個人・団体からの応募は、公益社団法人 NEXT VISION および審査委員会が、コンテスト運営上支障があると認めた場合は応募をお断りする場合があります。また、審査後であっても受賞を取り消すことがあります。
5. 応募の内容について他者の著作物（画像、データ等）が含まれる場合は、応募者の責任において事前に承認を得るなど適切な処理を行ってください。
6. 応募者は応募内容の中に第三者が知的所有権の権利を有し、法的に保護されているアイデアを利用していないことを事前に確認してください。【事例】については事実と反しないことを約束してください。
7. 応募内容の著作権に関しては、応募の時点で主催者に帰属するものとします。
8. 応募内容アイデアの知的所有権は応募者に帰属します。
9. 表彰される【事例部門】【アイデア部門】は公益社団法人 NEXT VISION ホームページ、isee! 運動ホームページで掲載するなど各種広報媒体にて広く公表します。
10. アイデアの事業化、商品化の場合の権利は主催者に帰属しますが、必要に応じて応募者と相談の上、決定します。
11. 審査についての個別のお問い合わせには応じられません。
12. 応募書類の返却は行いません。

主催等

主催：公益社団法人 NEXT VISION

助成：日本財団

本コンテストに関するお問い合わせ

公益社団法人 NEXT VISION

E-mail : visionpark@nextvision.or.jp

公益社団法人 NEXT VISION

isee! “Working Awards 2019” <応募用紙 事例部門>

フリガナ		フリガナ	
応募者名 (団体の場合：代表者名)		団体の場合：団体名	
応募者の職業 (団体の場合：代表者の職業)			
連絡先 (住所)			
(E-mail)		(電話番号)	
応募者のプロフィール (団体の場合：団体、メンバー のプロフィール)	<ul style="list-style-type: none"> ・略歴 ・就労事例に関連したご経験など、ご自由にご記入ください。 		
他のコンテスト等への応募の有無 ※過去に応募したもの、現在応募中のものをご記入ください。	<p>有・無</p> <p>主催者名（有の場合）</p>		
アンケート 本コンテストを知った、 <u>直接のきっかけ 1 つ</u> に丸印をつけてください。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公益社団法人 NEXT VISION のホームページ 2. 医療・福祉関係機関・団体のホームページ又はメーリングリスト (機関・団体名：) 3. コンテストのチラシ (入手場所：) 4. 後援・協力の企業・団体等を通じて (企業・団体名：) 5. その他：具体的にご記入ください (具体的にご記入ください：) 		

【事例名】

【事例の具体的内容】

※事例について、できるだけ具体的にご記入ください。図や写真などを使用いただいても結構です。

【事例のポイント】

※事例の特徴や意義など、重要なポイントをご記入ください。

【その他】

※必要に応じて、自由にご記入ください。

※応募用紙の枚数は A4 用紙 1 枚から 3 枚を目安としてご記入ください。

※応募締切 平成 30 年 10 月 31 日 (水) 24 時 00 分 (郵送の場合は 10/31 必着)

公益社団法人 NEXT VISION

isee! “Working Awards 2019” <応募用紙 アイデア部門>

フリガナ		フリガナ	
応募者名 (団体の場合：代表者名)		団体の場合：団体名	
応募者の職業 (団体の場合：代表者の職業)			
連絡先 (住所)			
(E-mail)		(電話番号)	
応募者のプロフィール (団体の場合：団体、メンバー のプロフィール)	<p>・略歴（ご自由にご記入ください。）</p>		
他のコンテスト等への応募の有無 ※過去に応募したもの、現在応募中のものをご記入ください。	<p>有・無</p> <p>主催者名（有の場合）</p>		
アンケート 本コンテストを知った、 <u>直接のきっかけ 1 つ</u> に丸印をつけてください。	<p>1. 公益社団法人 NEXT VISION のホームページ</p> <p>2. 医療・福祉関係機関・団体のホームページ又はメーリングリスト (機関・団体名：)</p> <p>3. コンテストのチラシ (入手場所：)</p> <p>4. 後援・協力の企業・団体等を通じて (企業・団体名：)</p> <p>5. その他：具体的にご記入ください (具体的にご記入ください：)</p>		

【アイデア名】

【アイデアの具体的内容】

【アイデアのポイント】※アイデアの独創性やニーズなど、特長を具体的にご記入ください。

【アイデアを実現するためのプラン】※資金面、物資や人材面など、できるだけ具体的にプランをお書きください。

【その他】※必要に応じて、自由にご記入ください。

※応募用紙の枚数は A4 用紙 1 枚から 3 枚を目安としてご記入ください。

※応募締切 平成 30 年 10 月 31 日 (水) 24 時 00 分 (郵送の場合は 10/31 必着)



表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MIP賞

Most Inclusive Player

**鈴木 佐知子
(盲女美術家SACHIKO) 殿**

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、周囲の協力の活動や関係性を
構築した就労により、我々に様々な知識と
深い考察を与えてくれました。これは視覚
障害者の就労促進に寄与されるものであ
り、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MIP賞

Most Inclusive Player

島袋 勝弥 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、周囲の協力の活動や関係性を
構築した就労により、我々に様々な知識と
深い考察を与えてくれました。これは視覚
障害者の就労促進に寄与されるものであ
り、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MSP賞

Most Strength Player

岡本 さやか 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、経験を強みとした就労により、
我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてく
れました。これは視覚障害者の就労促進
に寄与されるものであり、よってこれを賞
します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MSP賞

Most Strength Player

(有)オフィス Serendipity 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MSP賞

Most Strength Player

前田 憲志 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、経験を強みとした就労により、
我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてく
れました。これは視覚障害者の就労促進
に寄与されるものであり、よってこれを賞
します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MEP賞

Most Effort Player

吉永 智子 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、就労に対して継続的な努力・
支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び
支援活動に新たな風を吹き込まれました。
これは視覚障害者の就労に対する大きな
貢献であり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

MEP賞

Most Effort Player

奥沢 美砂 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、就労に対して継続的な努力・
支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び
支援活動に新たな風を吹き込まれました。
これは視覚障害者の就労に対する大きな
貢献であり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

METP賞

Most Edgy Technology Player

鹿島 佑太 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、最新の技術や知識を用いた就
労により、我々に新しい知見を与えてくれま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄与
するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

事例部門

METP賞

Most Edgy Technology Player

ブラインドオンラインサービス 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、最新の技術や知識を用いた就
労により、我々に新しい知見を与えてくれま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄与
するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

アイデア部門

価値転換賞

岡本 さやか 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、障害を強みとする発想を転換したアイデアにより、障害の価値を見出してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

アイデア部門

価値転換賞

森 雅子 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、障害を強みとする発想を転換したアイデアにより、障害の価値を見出してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

アイデア部門

環境整備賞

大橋 正彦 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労に配慮した
環境整備・啓蒙活動に関するアイデアを
創造してくださいました。これは視覚障害
者の就労促進に寄与するものであり、よっ
てこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

アイデア部門

ビジネスプラン賞

Convergence Lab. 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、実現可能性とビジネス要素を
含んだ視覚障害者の就労に関するアイデ
アを提案してくださいました。これは視覚
障害者の就労促進に寄与するものであり、
よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





表彰状

isee!“Working Awards” 2019

アイデア部門

ビジネスプラン賞

otomo 殿

あなたは isee!“Working Awards”に応募され、実現可能性とビジネス要素を含んだ視覚障害者の就労に関するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
事例部門

川口 育子 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献する事例を紹介してくださいまし
た。これは視覚障害者の就労促進に寄与
するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
事例部門

NPO法人視覚障がい者ネットワーク
コトリナ 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献する事例を紹介してくださいまし
た。これは視覚障害者の就労促進に寄与
するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入 選

isee!“Working Awards” 2019
事例部門

大川 和彦 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献する事例を紹介してくださいまし
た。これは視覚障害者の就労促進に寄与
するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

本間 英一郎 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

近畿ロービジョン研究会 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

NPO法人視覚障がい者ネットワーク
コトリナ 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

株式会社美キャリア 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入 選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

神田 信 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入 選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

前川 浩一 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

水野 友美 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

大窪 美緒 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

Nail Le Braille 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

山本 潤 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





入選

isee!“Working Awards” 2019
アイデア部門

MDSiサポート 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援に大き
く貢献するアイデアを提案してくださいま
した。これは視覚障害者の就労促進に寄
与するものであり、よってこれを賞します。

2019年2月9日
公益社団法人NEXT VISION

代表理事
三宅 養三





感謝状

isee!“Working Awards” 2019

鈴木 満江 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>



感謝状

isee!“Working Awards” 2019

山本 和美 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>



感謝状

isee!“Working Awards” 2019

阿部 磨呂 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>



感謝状

isee!“Working Awards” 2019

西山 幸代 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





感謝状

isee!“Working Awards” 2019

(株) VSN isee movement
挑戦チーム 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>



感謝状

isee!“Working Awards” 2019

福島 憲太 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三





感謝状

isee!“Working Awards” 2019

川村 信也 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>



感謝状

isee!“Working Awards” 2019

中野 規公美 殿

あなたは isee!“Working Awards”に
応募され、視覚障害者の就労支援・啓蒙
活動に貢献してくださいました。よってこ
こに感謝の意を表します。

2019年2月9日

公益社団法人NEXT VISION

代表理事

三宅 養三



isee! 運動

視覚障害者のホントを見よう

<http://isee-movement.org/>

isee! "Working Awards" 2019



主催：公益社団法人NEXT VISION
助成：日本財団

《isee!“Working Awards”とは》

公益社団法人NEXT VISIONでは、視覚障害者の社会価値の創出を目指す「isee! 運動」を行っています。

特に就労に注力した事業として、「isee!“Working Awards”」を実施しています。今年で3回目となる「isee!“Working Awards”」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない・見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。

応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。

<http://isee-movement.org/>

《isee!“Working Awards”2019 発表・表彰式》

- 日時：2019年2月9日（土）13：30～15：30
- 場所：神戸アイセンター Vision Park（神戸市中央区港島南町2-1-8 2F）
- 主催：公益社団法人 NEXT VISION
- 助成：日本財団

《 審 査 員 》

※五十音順・（ ）内は所属

大胡田 誠（社会福祉法人日本盲人会連合参与）
坂本 賢志（株式会社アシックス スポーツ工学研究所IoT担当マネージャー）
高見 俊雄（神戸市保健福祉局障害者支援課就労支援担当部長）
竹中 ナミ（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）
津田 諭（社会福祉法人日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター顧問）
初瀬 勇輔（東京中小企業家同友会 多様な働き方推進委員会委員）
細谷 崇（神戸公共職業安定所 雇用対策部長）

《 審 査 ・ 表 彰 》

■事例部門

受賞者に「就業者=Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的としてMVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee! 運動」のi.s.eの3文字を使い「MIP賞」「MSP賞」「MEP賞」「METP賞」を設けました。

- MIP（Most Inclusive Player）賞
周囲の協力を活用した事例
- MSP（Most Strength Player）賞
経験を強みとした事例
- MEP（Most Effort Player）賞
継続的な努力を重ねた事例
- METP（Most Edgy Technology Player）賞
最新技術を活用した事例

■アイデア部門

- 価値転換賞
障害（弱み）を強みとする発想転換のアイデア
- 環境整備賞
ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア
- ビジネスプラン賞
実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア

《 受賞者・事例部門 》

※エントリー順

●MIP 賞

ヨコハマ SAS ユニバーサルデザイン研究室（団体）

盲女美術家 SACHIKO が提案するデザイン

～晴眼者との協働によるビジネスの実現～ 1

島袋 勝弥（個人）

高専教員としてサバイバルする～支援環境の整備と自己工夫～ 2

●MSP 賞

岡本 さやか（個人）

少しの工夫とアイデアで、お料理、お菓子作りの楽しさをしてもらいたい 3

旬オフィス Serendipity（団体）

患者経験を活かして医療コミュニケーション学を学び、医療・教育に特化した

コーチとして日本の医療界・教育界に貢献 4

前田 憲志（個人）

英語講師や教材開発の経験を活かし、「視覚情報サポートラジオ」を開設 5

●MEP 賞

吉永 智子（個人）

英会話スクールの経営と講師～中途半端 ♪視覚障害者～ 6

奥沢 美砂（個人）

視覚障害の方の社会参加を後押し 美容情報「おしゃれなひととき」の制作 7

●METP 賞

鹿島 佑太（個人）

メガネ型端末を活用した仕事の幅の広がり負担の軽減について 8

ブラインドオンラインサービス（団体）

視覚障害者が在宅、オンラインで働く仕組み ブラインドオンラインサービス 9

●入選

川口 育子（個人）

見えないからこそ、発見できたこと 10

NPO 法人視覚障がい者ネットワークコトリナ（団体）

視覚障がいと両手の障がい。iPhone で宣伝部長 11

大川 和彦（個人）

公共図書館における障害者サービスに携わる意義 12

《 受賞者・アイデア部門 》

※エントリー順

●価値転換賞

岡本 さやか（個人）

講師は視覚障害者。「手軽なアイデアクッキング」の開催 13

森 雅子（個人）

視覚障害者のための家電ソムリエ 14

●環境整備賞

大橋 正彦（個人）

isee! “Working Awards” 支援者部門の新設 15

●ビジネスプラン賞

Convergence Lab.（団体）

カメラで撮った人物や風景を音声と文章で教えてくれるスマホアプリ Kagura . . . 16

otomo（団体）

視覚障がい者の挑戦を支援する

「otomo ブラインドスタートアップ応援プロジェクト」 17

●入選

本間 英一郎（個人）

コールセンター業務研修・模擬業務体験 働ける実感を体験しよう！ 18

近畿ロービジョン研究会（団体）

通勤オタスケ隊 19

NPO 法人視覚障がい者ネットワーク コトリナ（団体）

だけじゃない 同行援護 DAKEJANAI GUIDE by コトリナ 20

株式会社美キャリア（団体）

視覚障がい者だからこそその強みを発揮し、多くの選択肢を持てる社会へ 21

前川 浩一（個人）

タブレット型ロービジョンサポートデバイス 22

神田 信（個人）

合理的配慮を受けやすい環境創り 視覚障害 お仕事お助け隊 創設構想 23

水野 友美（個人）

水引で新たな可能性 ～視覚障害者の職域拡大、そして自立へ～ 24

大窪 美緒（個人）

Kahei&Kaunto 25

Nail Le Braille（団体）

仕事の選択肢をマッサージやパソコンから販売へ！！ 26

山本 潤（個人）

心の芽で世の中を動かす 27

MDSi サポート（団体）

音声コードを活用した情報バリアフリー 28

就勞事例部門



【就労事例部門】

MIP賞 ヨコハマSAS
ユニバーサルデザイン研究室

盲女美術家SACHIKOが提案するデザイン ～晴眼者との協働によるビジネスの実現～

私のビジネスモデルの特徴は、視覚障害者と晴眼者の協働です。真の意味での共生モデルを目指しています。協力者は現在60余名おり、地元の企業や官公庁に「ユニバーサルデザイン」商品やサービスの「企画・開発・提案」及び「調査・研修」を行っています。

主な実績としては、2016年9月横浜ラポール内の新旧点字誘導ブロックの比較調査、2017年2月バンビーノ社製穴あき「子どもランプ1to10」の改善提案、2018年7月パシフィコ横浜国際展示場で開催された「盲女美術家が提案するデザイン」に出展、2018年11月あおばのギャラリーで「盲女美術家のスーパーかわいい絵画展」の企画展示、2018年11月同テーマにて赤レンガ倉庫企画出展、2018年9月～12月「ユニバーサルカトラリー比較調査」、「食品・化粧品パッケージ表示比較調査」、「視覚障害者向けしかけ絵本比較調査」などです。

前4者は、今年度の日本商工会議所持続化事業の対象になっています。障害者が自ら企画運営を行うためUD市場ニーズに合致するものとなっています。一方視覚ハンディを晴眼者の協力で補うことで作業を正確に迅速に進めます。このように、商品やサービスに「安全・美感・機能・価格」を独自提案することが、この事業の目的です。

審査員コメント

すでに実績もあり素晴らしい取り組みだと思えます。視覚障害者と晴眼者の協業ということで、点字ブロックの評価など面白い事例だと思えます。美術家という観点で視覚障害者の感性を生かした事業の発展を期待しています。



鈴木 佐知子 造形作家・デザイナー

出身：1999東京学芸大学芸術教育学科博士課程。
画歴：神奈川県展協会賞、和歌山洋画100大賞、アメリカ大賞(ブロンクス美術館)、2011セーラムG(NY)、2014Gサテリット(Paris)。
所属会員：日本デザイン学会、大学美術教育学会、日本美術教育連合 I N S E A (国際美術教育連合)、モダンアート協会。

【就労事例部門】

MIP賞 島袋 勝弥

高専教員としてサバイバルする -支援環境の整備と自己工夫-

網膜色素変性症により視覚が悪化した私が休職に至り、リハビリを経て復職した経緯、そして、復職後の職場での支援体制や自分自身の工夫について紹介しています。ロービジョン眼科医との出会い、福岡視力障害センターでのリハビリ、さらに、復職にあたっての職場との折衝についても記しています。

高専教員という職業柄、職務の内容は多岐に渡り、私にできないこともあります。これを補うために、学校側から手厚いサポートを受けています。物理的な支援としては、階段への手すりの取付けや学内での点字ブロックの設置などがあります。人的な支援として、非常勤の事務員が私の仕事の補佐をしてくれます。見えづらさを補うために、仕事に様々な工夫を取り入れています。例えば、板書が難しい私はPowerPointで講義を行います。また、試験はマークシート形式にし、極力視覚に頼らないようにしています。

高専教員である私は、研究活動も続けています。視覚障害者にも関わらず、顕微鏡を使った生命科学の研究をしています。学生が私の目の代わりとなり、顕微鏡観察をしてくれます。撮影した画像を学生に口頭で説明してもらい、実験結果を把握しています。就労を続けていく上でも、「見えづらさ」を丁寧に伝え続け、周りに理解者を増やしていくことが、今後の課題と考えています。

審査員コメント

視力の低下する中で高専教員として学生と共に研究を続けられていることは、多くの学生に勇気を与えることだと思います。島袋さんだけでなく、チームで実施されている事例ですね。本人の能力や意欲に加え、周囲の適切な支援があれば、視覚障害者の可能性は無限に広がるのだと改めて感じました。このような配慮のある職場がもっと増えることによって、視覚障害者の就労が促進されることを期待します。



島袋 勝弥 高専教員

1977年、沖縄県生まれ。2004年に東京工業大学大学院生命理工学研究科博士課程 修了。学位は博士(理学)。
2005年に渡米、フロリダ州立大学にて博士研究員として勤務。
2012年4月から宇部工業高等専門学校 物質工学科にて教員となり、現在に至る。
22歳で網膜色素変性症と診断され、現在、右目は手動弁、左目は視力0.7視野2度。

【就労事例部門】

MSP賞 岡本 さやか

少しの工夫とアイデアで、 お料理、お菓子作りの楽しさをしてもらいたい。

「コープこうべ」でレシピ開発の仕事をしています。働く以前は個人でお菓子教室を開いていたのですが目の病気が徐々に進行し、一人では続けていくのは無理だと思いあきらめました。もう一度お菓子作りの楽しさを人に知ってもらいたいと思い、自分にできる働き方で仕事をすることにしました。

「コープこうべ」でのレシピ開発の仕事は「目が悪い」ということを事前に伝えて、サポートしてもらいながら働いています。会議の時の資料は事前にデータでもらうので拡大コピーやルーペを使って参加しています。レシピ開発の仕事は主に自宅で料理の検証を行い出来上がったレシピは自宅のパソコンから会社に送ります。計量は計りの文字が見えにくいので、計量カップや大さじ、小さじなどを用いて計量しています。包丁を使うときは慎重に、焼き具合などは自分の鼻と耳そして舌で確認します。焼けていく時の音、臭いで確認し最終的に味見をして完成させます。

視覚障害者に作りやすいレシピは晴眼者にとっても役に立つレシピだと思います。視覚以外の感覚を上手く使うことでお料理やお菓子作りができるということをたくさんの人に知ってもらいたいです。障害のある方も無い方もすべての人が笑顔でキッチンにたてる、そんなお手伝いができたらいいなと思っています。

審査員コメント

料理はレシピや道具の使い方を工夫すれば見えていた時とほぼ同じように作ることができるという岡本さん。そのことに素朴な驚きを覚えました。そうすると、見た目にとらわれずに味や香りに集中できる分、料理というのは視覚障害者に向いている仕事なのかもしれません。これからも、健常者にはたどり着けない奥深い味や香りの世界を私たちに教えていただきたいと思っています。



岡本 さやか コープこうべ

大学卒業後、兵庫六甲農業協同組合で勤務。製菓アドバイザー、食育指導士、野菜ソムリエなど食に関する資格を取得し、現在は「コープこうべ」の地域活動推進部でレシピ開発の担当。弱視の当事者として視覚に頼らず作れるレシピの提供や視覚障害者向けの料理教室の講師のボランティアも行っていきます。

【就労事例部門】

MSP賞 (有)オフィスSerendipity

患者経験を活かして医療コミュニケーション学を学び、 医療・教育に特化したコーチとして日本の医療界・教育界に貢献

コーチングを学び始めた頃は、pcは16フォントに拡大をすれば使えましたが、活字の読み書きは不自由になりました。それでも多数の研修会に参加する事で耳からコーチングを習得しました。国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチのライセンスを取得、2004年に起業し、全国の国公立病院や自治体や学校などに研修を実施しました。「コーチングで保健指導が楽しくなる!医療コーチングレッスン!」など10冊の著書も書きました。

神奈川県立高校の養護教諭の方々による県西地区研究会でコーチングの考え方を取り入れた支援保健室での取り組みからの助言者として関わりました。その他にも、東京都公立小学校に子供達が安心できるプラットフォーム創りに関わり、教師と保護者にコーチング術研修と管理栄養士による食の講演会を導入する事で生徒たちの暴力やいたずらを解消させた事例もあります。徳島県教育委員会主催で家庭教育コーチ養成講座プロジェクトにも関わりました。

また、杏林大学保健学部救急救命士課程医療コミュニケーション学教室にてコーチング実習の導入の実証研究を2001年から7年半実施し日本臨床救急医学会に論文の執筆もしました。

2008年より視力が低下しpcも使えなくなり不自由になり、かつ母の介護を7年半していたために仕事も縮小傾向になりました。再起を目指して2017年9月より東京視覚障害者生活支援センターに通所し機能訓練中です。

審査員コメント

医療コミュニケーション術というものの内容がよくわかりませんが、カウンセリングではコーチングの役割は高まっていると言われてます。まだ、視覚障害者でコーチングを仕事としている人は多くないはずです。

鱸さんのように、本人の抱えている問題に対して、他からのアドバイスを求めるのではなく、問いかけを通して本人自身が答えに辿り着く、それは真に問題解決に至る手法として貴重なものです。卓越した知識と経験をお持ちの方が、コーチングの分野で活躍してくださることは、今後、この分野を志す視覚障害者に大きな勇気と目標を与えることになるはずです。これからの活躍を期待しています。



鱸 伸子 (有)オフィスSerendipity 代表取締役

通算9年米国と英国で生活した帰国子女。慶應義塾大学文学部卒。

30代で弱視になり、コーチングと出会い、大きな転機を迎える。

コーチングを習得する事で2004年より有限会社オフィス Serendipityを創立。

コーチングの国際ライセンスも取得し、医療・教育に特化したコーチとして活動中。

【就労事例部門】

MSP賞 前田 憲志

英語講師や教材開発の経験を活かし、 「視覚情報サポートラジオ」を開設。

英語講師として、学習塾の現場で受験を勝ち抜くためのスキルを磨き、同時に教材開発を行うなど、受験のためのノウハウを積み重ねるも、徐々に進行する網膜色素変性症は、教壇に立ち続ける願いを奪いました。光覚となった現在では、同じ会社の開発部門で、教材開発をしています。職場の理解と助けがあってこそ、自身のスキルが生かせる環境で、仕事ができることに感謝の日々を送っています。

ある日、入力文の確認中、ある漢字の細かい所が思い出せなくなりました。「あの漢字のあの部分、どうやって書いたっけ？」家族に、友達に、同僚に、そっと聞いてみます。そんな日々、ふと思いました。

「途中で視力をうしなった人々の多くが、同じ思いをしているのでは？」

そこで友人と立ち上げたのが、「視覚情報サポートラジオ」(現在放送中)です。特に、点字の読めない多くの中途視覚障害者にとって、必要不可欠なその文字情報を、リクエストに応じ、音声でお届けする、新しいタイプのネットラジオ講座が番組の看板となりました。

また、視覚に障害を抱えつつも、音楽を続けるアーティストを紹介していく「音楽コーナー」も、さらに多くの支持を得て、番組を盛り上げています。

審査員コメント

YouTubeを媒体にして、視覚障害者の視点で知識・教養を高める番組作りを行われる実践は、ご自身の学習塾に勤務された経験をしっかりと生かしたものであると思います。多くの視覚障害者に支持される番組となることを期待しています。

平時と災害時に活用ができると思います。人生に奥行きを与える生涯学習の場「ブライント・ロービジョンスクール」の構想に期待します。



前田 憲志 学習塾・開発課勤務の会社員

大学では英語を専攻し、学生時代から学習塾の英語講師として、約15年間のキャリアを積む。

視力低下後も学習意欲は強く、様々な講座を受講するも、

晴眼者向けのものしかないことに落胆。

今後、視覚障害者でも学べる、ウェブを生かした新世代のブラインドスクールの設立を目指す。

【就労事例部門】

MEP賞 吉永 智子

英会話スクールの経営と講師 ～中途半端♪視覚障害者～

プライベートで、英会話スクールを経営し講師として子供たちに英会話を教えています。網膜色素変性症で徐々に視野が狭まり、視力も低下し墨字はほぼ見えなくなりました。仕事の継続は難しいと考え思い悩みましたが、何度考えても出てきた答えは「私は子供たちに教えるのが好きだということです。子供たちとずっとかかわっていきたいと考えています。」その強い思いでした。しかし、現実的に何が出来るのか、どうすればよいのか。情報のない中途視覚障害者になった私にはどこに、誰に聞けばよいのか、なかなか情報に行き着けませんでした。

そんな中、ようやく私の目のことを理解してくれたサポート団体との出会いにより英語点字と、音声PCに出会うことができました。「何が出来る？」ではなく「私は何をやりたいの？」からできる工夫に出会い仕事を続けることができました。好きなこと、やりたい事だから頑張れるし、楽しいと感じます。

これからのミッションは、①英語を教えられる人材育成②英語を学ぶ以前にコミュニケーション力・自己表現力を高める場を作ること。それを可能にするには、私一人では難しいと思います。実現させるには法人団体や地域の人との協力も得ること。まずは私の存在を知ってもらい人脈を広げていくこと、そしてそれを形にして実現させることだと思います。社会全体で子供たちを育てていけるそんな取り組みを進めていきたいと考えています。

審査員コメント

中途視覚障害で、日本語点字と英語点字を習われたということに敬意を表します。智子さんに出会い、智子さんから学んだ子どもたちは、きっと温かく、支え合うことのできる大人に成長することでしょう。何が出来るのかではなく、何がしたいのかを突き詰めて考え、自分らしく英会話スクールの経営に邁進していらっしゃる姿に視覚障害者の社会参加を考える上での大きなヒントをいただきました。



吉永 智子 英会話スクールの経営、英会話講師

1989年、イギリス、ロンドンで英語。スイス、チューリッヒでドイツ語の二か国留学。JTB添乗員、企業での通訳などを経て、2005年アメリカ人のダンナと英会話スクールを開校。JICA、地域の国際交流協会などを通じ、海外からの医療従事者や学生などのホストファミリー。

【就労事例部門】

METP賞 奥沢 美砂

視覚障がいの方の社会参加を後押し 美容情報「おしゃれなひととき」の制作

資生堂は1987年より、視覚障がいの方向けに季節ごとの美容情報をお届けする音声コンテンツ「おしゃれなひととき」を年4回発行しています。全国の点字図書館でのCD貸出しやサピエからのダウンロード、資生堂ウェブサイトでは音声とテキスト版でもご紹介しています。

私は2016年から「おしゃれなひととき」の制作に関わるようになり、翌年からはメイン担当として、コンテンツの内容構成からCD制作までの一連の業務を行っています。社内の新製品情報や広報のリリース情報などを収集し、その中から、今注目の情報や使いやすいようなアイテムなどを厳選して紹介しています。新商品の使い方を、指を使ってつけるなど視覚に頼らずにできる方法で紹介するコーナーも新設し、そのナレーションも担当しています。制作にあたっては、視覚障がいの方向けメイクセミナーの担当者にも意見やアドバイスをもらい、共に取り組む中で相互理解も深まっています。

メイクやおしゃれはビジュアル情報も多く、季節ごとに変化する情報はタイムリーな入手が難しい領域です。そうした情報のバリアを取り払い、視覚障がいの方にも分かり易く、活用いただける内容をお届けすることで、視覚障がいの方の外出機会や、社会参加の後押しにつながればと思います。

審査員コメント

視覚障害者が美容に関する情報を得ることはきわめて難しく、流行やトレンドに精通した奥沢さんが、視覚障害者の視点に立って、専門スタッフの協力を得ながら情報発信することには大きな意味があります。視覚障害者の化粧の社会的認知と晴眼者と視覚障害者が気軽にアドバイスし合える関係の構築という目標の明確さを評価します。



奥沢 美砂 株式会社 資生堂

網膜色素変性症により12歳の頃から徐々に見えなくなり、現在は視覚障害者2級。2000年に資生堂に入社し、企業のCSR・社会貢献関連の業務を担当。主に、PCの音声読み上げソフトを使って業務を行っている。現在7歳の娘を育児中。短時間勤務、テレワーク(在宅勤務)等の制度も活用して就労中。

【就労事例部門】

METP賞 鹿島 佑太

メガネ型端末を活用した仕事の幅の広がりとは負担の軽減について

以前から最新技術に興味があり、最新の視覚障害者向けメガネ型端末（eSightマイグラス）を業務に導入しました。会社では基本的に晴眼者の同僚と同じ業務をしていますが、見えにくさによるいくつかの課題をメガネ型端末の活用により改善する事ができました。

主なポイントは以下の3つです。

- 業務効率化：両手が自由な状態で拡大した文字を読むことができるため、PCの画面を見ながら両手でキーボード入力ができ、効率的に業務を遂行できるようになりました。
- 他の人と共同作業ができる：機器を身につけ自由に行動できる点と、ルーペや単眼鏡では難しい中距離を見る事ができるので会議などで一緒にPC画面や資料を見ながら作業ができるようになりました。
- 見えにくさに付随する問題を解消できる：目の前にディスプレイがあるため、正しい姿勢で作業を行う事ができ、体の負担や疲れも軽減されました。

現在では、周囲の同僚と同じように業務を行っており、自分に自信を持つ事ができるようになりました。

審査員コメント

視覚障害者向けメガネ型端末を使って、複数の社員の端末画面を見ながらコールセンター業務のスーパーバイザをこなしておられます。見え方にもよりますがロービジョンの方には参考にしてもらいたい働き方だと感じました。これから据え置き型の拡大読書器よりも主流になるのではと期待できる事例だと感じます。



鹿島 佑太 会社員

若年性先天性網膜分離症で視力と視野に障害あり。
小学校就学時に弱視学級に通級。中・高・大学では座席を前にしてもらうなどの配慮を得ながら普通校に通学。主にルーペや単眼鏡を使用して授業を受ける。
大学卒業後は損害保険会社のグループ会社に就職。
事故受付センターでスーパーバイザー業務を担う。

【就労事例部門】

METP賞 ブラインドオンラインサービス

視覚障害者が在宅、オンラインで働く仕組み ブラインドオンラインサービス

視覚障害者は出かけにくい。誰もがそうとは限らないとしても。出かけにくいけれども力を活かせる、働ける、学べる。そんな仕組みを作りたいと思い、ブラインドオンラインサービスを作りました。

メンバーは、インターネット、SNSなどで募集しました。パソコン、スマホのスクリーンリーダーでの利用、その他視覚障害者の専門の支援機器の使い方に詳しい人たちです。宣伝、スケジュール調整、支払い事務には晴眼の代表が携わります。視覚障害当事者のメンバーは、電話やスカイプ、ライン通話などでの、相談対応に集中出来ます。相談対応から始めましたが、今後は、講習の開催、オンライン教材の提供など、精力的に活動して行きたいです。

現在(2019年1月4日)のメンバー(敬称略)は、小川誠(群馬県)、北村直也(東京都)、中蔦麻希(兵庫県)、稲田佳紀(和歌山県)、小林芽衣(鳥取県)、森佑太(東京都)、野々垣美名子(東京都)、他3名の合計10名です。

Web: <https://sites.google.com/view/blindonlineservice>

メール boserv112233@gmail.com

電話 090-7186-4265 (野々垣)

審査員コメント

IT分野が得意な視覚障害者の技術を生かして、オンラインでのサポートやプログラム開発などを有料で行うサービスを提供する枠組みを作られたのは、面白いアイデアだと思います。視覚障害者の多くは、仕事の本質部分ではなく、周辺の雑務に困難を感じています。そのため、専門的な知識を持った視覚障害者とクライアントを、健常者が仲立ちする形でつなぐ野々垣さんのビジネスモデルに大きな可能性を感じます。視覚障害者も自分の得意な分野に特化することができれば、健常者に引けを取らないパフォーマンスを発揮できる場合が多いはずで、野々垣さんのような方の存在は、専門分野に秀でた視覚障害者の活躍を後押しするものになると、とても期待しています。



野々垣 美名子 ブラインドオンラインサービス代表

2012年、転職直後の通勤経路にて、白杖の女性と出会う。乗車駅、降車駅が同じだったため、毎日一緒に通勤。彼女に便利な機器などの情報収集中にスクリーンリーダーNVDAに出会い感銘を受け、2014年9月に日本語チーム、2015年6月にNVDAヘルプデスクに参加。ツイッターIDはMina_Nono。

【就労事例部門】

入選 川口 育子

見えないからこそ、発見できたこと

会社で内線を回す時のパソコンの画面は緑色で、どうがんばっても見えません。いちいち見てもらわなければならず、歯がゆい思いをしていました。ある時、画面の下の方に番号が出ていることに気がつき、それが内線番号でした。以来、自分で番号を入力してかけていると、周りの人が驚きました。そのことを見える人は気づかなかったのです。私は困っているからこそ気がつけたのかもしれない。

また、ボールペンで大きく書くよりサインペンで少し大きめに書いて欲しいなど、効率よく仕事ができるように自分の状態を伝えることが大事です。そのことで、私達が見える人を気付かせる存在になれることもあると実感しました。

審査員コメント

晴眼者の中で働いている中で、気の持ち方によって違いが出てくることを再認識させていただきました。内線番号がわかることで電話の転送ができるようになり、それが自信となって、積極的に周囲に依頼することができるようになったというのは、象徴的です。いくら、「周囲に依頼しましょう」といっても、自分で「この部分では」貢献しているという自信がもてる部分がないと難しいのも人情です。



川口 育子 契約社員、パートナースタッフ

旅行代理店、広告代理店、番組制作会社など大手から中小企業まで十数社で勤務し、販売、営業、企画、統括業務、ラジオディレクター、日本語教師、塾講師他、様々な職種を経験する。近年は朗読活動に力を入れている。

【就労事例部門】

入選 NPO法人
視覚障がい者ネットワークコトリナ

視覚障がいと両手の障がい。iPhoneで宣伝部長

コトリナにてITの指導、営業、広報担当をしています。清水康太郎さんと知り合った頃、メールの返事の速さと、その文章が優しく、思いやりのある内容で感心しました。音声PCやiPhoneを教えてくれるようになり、お年寄りや、初心者に対し、同じ質問にいつも笑顔で、何度でも答えてくれて、メールに現れる人柄通りだったことを知りました。ITの指導のみならず、徐々に宣伝、営業に力を発揮してくれるようになりました。Facebookやツイッターの拡散。点字名刺の営業。コトリナの広報などです。

とりわけ、彼の功績が大きいものは、人脈をFacebookや居酒屋で広げてきてくれることです。彼の功績があって、6月に催したロービジョンフェアには遠方から、大勢の方を迎えることができました。また、ロービジョンフェアをきっかけに、JAVISという会社のスタッフに見初められ、今はJAVISでも同様の営業員として雇用されています。

ただシェアするだけでなく、彼の添える暖かい人柄を思わせる一言が何よりの効果をもたらしています。視覚障害があり、両手も不自由だが、いつも穏やかで、賢く、人への思いやりのある人柄とPC、スマートフォンを独学で使いこなす技術があります。彼の才能を活かし、Facebookを介しての宣伝活動、居酒屋での営業？は通勤せずにできる才能を生かした仕事だと思えます。

審査員コメント

外来とサロンの併設から地域展開に結びつけた自然なプロセス。多様な人のかかわりから人間力を引き出している点を評価します。



清水 康太郎 NPO法人視覚障がい者ネットワークコトリナ

筑波技術短大卒業。国立リハビリテーション学院、理療科卒業。
日本盲人職能開発センターにて音声PC指導助手。
2013年より2年間、東京都立多摩総合医療センター眼科にて音声PC指導。
2016年4月よりコトリナにて音声PC、iPhoneの指導の傍、営業、広報活動。

【就労事例部門】

入選 大川 和彦

公共図書館における障害者サービスに携わる意義

図書館に視覚障害当事者職員がいることにより、専門的知識を有する音訳協力者と相談しながら、聴いてわかりやすい録音図書を作成できたり、でいじー再生機器の説明を電話で細かく伝えたりできるなど、サービス向上に大きな戦力となります。

デイジー再生機器(プレクストーク)は電化製品でなく、量販店では購入できないこと。日常生活用具制度での補助もあることまで案内する必要がありますが、視覚障害者がいると、きめ細やかな対応が可能となります。

サピエ図書館には個人登録ができることなどや、近隣での福祉機器展、イベント情報、各種団体情報提供など直接は図書館に関わらない周辺情報も含めて情報提供できることの意義は大きいといえます。

審査員コメント

視覚障害者が公共図書館で働くことは、その障害者自身の自己実現ができるだけでなく、地域の住民や図書館にかかわるボランティアなどにとっても大きなメリットとなるのだと改めて気づかされました。視覚障害者や高齢者の知る権利の保障やQOLの向上のため、公共図書館における視覚障害者の雇用がさらに進むことを期待したいと思います。



大川 和彦 公務員 千葉市中央図書館勤務

1998年より千葉市職員。日本図書館協会障害者サービス委員。
なごや会(公共図書館で働く視覚障害職員の会会員)
視覚障害にまつわることを自由に発信し交流する馬場村塾塾長。

アイデア部門



【アイデア部門】

価値転換賞 岡本 さやか

講師は視覚障害者。 「手軽なアイデアクッキング」の開催

「お料理教室に通いたいけど先生も生徒さんも晴眼者なので自分には難しい。ついていけない。」と、全盲の方から言われたことがあります。そこで視覚障害者が視覚に頼らないレシピの開発を行ない、料理教室やお菓子教室の講師をすることを提案します。

講師はボランティアの方に最初に作業台の上にある調味料の配置などを教えてもらい確認しながら作業を行ないます。毎回同じ位置にしておくことが重要です。計量は計りで何グラムという計りかたではなく、計量カップ、大さじ、小さじなどを用いて計ります。なおかつ作りやすい分量でのレシピを開発します。例えば、小麦粉1カップ(110グラム)、砂糖大さじ3(27g)、バター大さじ1(12グラム)など。

コンロを使うのではなく電子レンジ調理や炊飯器でケーキを作るなど安全で簡単に調理できるレシピを考えます。そういったレシピは時短や節約にもつながり、高齢者や働くお母さんなど忙しい方にも使っていただけるレシピだと思いますので、たくさんの方に参加して頂けると幸いです。

視覚障害者がレシピを考え、講師を務めることで日頃の工夫やアイデアをより多くの視覚障害者や健常者に知ってもらえるチャンスだと思います。

審査員コメント

弱視者が開く料理教室は、電子レンジや炊飯器でケーキを作るなど視覚障害者でも安全な調理方法を伝えることができるのは、いい観点の料理教室だと思います。実現可能性も高く、参加者も喜んでくれると思います。イベント的に行うのか継続していくのか事業化していくのかの議論は必要かと思います。



岡本 さやか 生活協同組合コープこうべ

大学卒業後、兵庫六甲農業協同組合で勤務。製菓アドバイザー、食育指導士、野菜ソムリエなど食に関する資格を取得し、現在は「コープこうべ」の地域活動推進部でレシピ開発の担当。弱視の当事者として視覚に頼らず作れるレシピの提供や視覚障害者向けの料理教室の講師のボランティアも行っています。

【アイデア部門】

価値転換賞 森 雅子

視覚障害者のための家電ソムリエ

家電を購入する際、家電量販店に行って、視覚障害がある為、音声機能などが付いた視覚障害者でも利用しやすい商品を探るのですが、ほとんどアドバイスを頂けることはありません。

自分で調べて、直接メーカーに問い合わせしたり、視覚障害者の友人知人に聞いて、情報収集したりと、商品にたどり着くまでにととても苦労しています。

こんな時、視覚障害者で家電に詳しく、その人の見え方や生活に応じて商品を的確にアドバイスしてくれる「視覚障害者のための家電ソムリエ」がいたらいいのに、と思いつきました。

最新の家電は、タッチパネル形式や視覚を必要とするものが多いため、視覚障害者だけでなく、高齢者にもニーズがあると思われる。

今や、家電芸人がいる時代、視覚障害者の家電アドバイザーが職業として成り立つのではないのでしょうか。

審査員コメント

現在、視覚障害者が、自分にも使いやすい家電製品を選択し購入することはとても難しい状況にあります。森さんのアイデアのように、視覚障害者がワンストップで家電製品についての情報を得ることができ、使い方を相談できるアドバイザーがいたら、助けられる人はとても多いはずで、ぜひともこのアイデアを実現していただき、視覚障害者のQOLを向上させていただきたいと願っています。



森 雅子 主婦

大学卒業後、大手自動車部品メーカーの製造管理部に勤務。

二十年前に網膜色素変性症と診断される。

結婚を機に退社以来、専業主婦として現在、中高生の二人の息子の子育て中。

三宅琢先生主催のG-Lounge in東京大学に参加したことで、自身の障害を受け入れ、前向きに踏み出すことが出来た。

【アイデア部門】

環境整備賞 大橋 正彦

isee! “Working Awards” 支援者部門の新設

視覚障害者の就労をよりアクティブにするためには残念ながら根強く社会に残る「視覚障害者にさせる仕事がない・・・」「視覚障害者にどう接してよいかわからない」といった偏見や健常者への情報不足を軽減する必要があります。我々職を持つ当事者と実際に接している方々のケースワークを紹介し、特別ではないごく普通のコミュニケーションとちょっとしたアイデアを讃えることで広く社会に視覚障害者の現状が発信できるのではないかと感じています。

そこで、その支えていただける方をたたえる賞の新設をご提案します。職場で働く視覚障害者が、職場の上司や同僚を推薦する形で応募し、他部門同様、選考により決定します。そして受賞者・推薦者両名同席で受賞式に参加できることを応募条件に付与します。《職場内で視覚障害者を支えている人々》の事例にフォーカスを

また、様々な企業や事業所(雇用側)の健常者にこのコンテストへの興味促進を図り、直接的な参加を拡大させ、より視覚障害者の今を知って頂く機会を創出します。そこから無意味な偏見の払拭はもちろん、雇用拡大につなげることができるのではないかと考えます。

審査員コメント

会社で視覚障害者を支える同僚と本人をペアで表彰するのは、就労を促進するうえからも面白いと思います。
支える企業の方も巻き込めるのでよいと思います。



大橋 正彦 会社員、認定NPO法人タートル

1962年東京生まれ。40歳を過ぎたころ緑内障の診断を受ける。自覚症状の無さと、多忙な日々の中、十分な治療をしなかったことで病状を悪化させ、障害者手帳取得に至る。就労支援訓練を受け、就職活動を行い現職場に再就職今に至る。職場では事務職として勤務する傍ら視覚障害者の就労問題についての活動を行う。《認定NPO法人タートル》に参加。精力的に活動中。

【アイデア部門】

ビジネスプラン賞 Convergence Lab.

カメラで撮った人物や風景を 音声と文章で教えてくれるスマホアプリ Kagura

AIは多くの可能性を秘めています。Amazon Alexa や GoogleHomeなどのスマートスピーカーをすでに使われている方は多いのではないかとおもいます。画面を見ることなく家電等を操作することもできるスマートスピーカーは革命的な技術です。

しかし、世の中には文字情報や音声情報だけではなく、視覚情報にたよったインフラも多く存在します。Kaguraは、スマホのカメラで人物や風景を映すと、映ったものについてスマホが説明文の表示と音声で教えてくれるアプリです。人物を映すと年齢、性別、表情をおしえてくれ、紙幣と硬貨を映せばいくらあるか数えてくれます。AIはまだまだ発展途上ではあるものの素晴らしい技術で、これまで不可能であったことが実現できます。Kaguraもその一つです。

類似のメガネ型デバイスが存在しますが、初期費用が60万円ほどかかると聞きます。Kaguraはなんとか安く提供できないかと考えています。そこで着目したのがスマートフォンです。デバイス開発にかかる費用を圧縮することで開発費を削減します。

審査員コメント

AIを活用した画像解析と文字認識を一つのアプリでやるという汎用性の高いアプリと思います。このアプリを活用することにより、視覚障害者の行動範囲が広がり、生活の質が向上すること、ひいては就労にも活用できるツールとして普及することを期待します。また、軽量、安価で操作が簡単であれば、一層視覚障害者の社会参加が増えるものと思います。



木村 優志 博士(工学) Convergence Lab. 代表

豊橋技術科学大学にて博士(工学)を取得。大手通信キャリアに採用されている音声認識エンジンや大手ITベンダのAIプラットフォームの開発に携わる。2018年4月にConvergenceLab.を立ち上げAIのコンサルティングや製品開発を行っている。

【アイデア部門】

ビジネスプラン賞 otomo

視覚障がい者の挑戦を支援する 「otomoブラインドスタートアップ応援プロジェクト」

視覚障がい者が抱える社会課題を視覚障がい者が解決する。
そんな挑戦をotomoが応援します。

資金面の支援として、同行援護の寄付型プログラム（準備中：2019年リリース予定）の支援先の一つとして本プロジェクトに採択された方を選定。その他にも事業相談、広報ツールの制作や当事者への情報提供が必要な事務手続き、それに伴う移動などの支援も行います。

挑戦する視覚障がい者の方と一緒に僕たちも成長していきたいです。

審査員コメント

視覚障害当事者への起業支援は素晴らしいですね。視覚障害者が自ら起業する場合、健常者とは比べ物にならないほど高いハードルがあります。鈴木さんの提案する視覚障害起業家のスタートアップ支援の仕組みは、夢と野望を持った視覚障害者に大きなチャンスをもたらす可能性があります。ぜひとも実現してほしいアイデアです。



鈴木 貴達 同行援護事業所otomo／リンクス株式会社 代表取締役

1983年、東京都葛飾区生。

2004年に広告代理事業を行うリンクス株式会社を設立、代表取締役就任。

2017年、母親の視覚障がいをきっかけに、視覚障がい者の外出を支援する同行援護事業所otomoを設立。現在2拠点60名以上のガイドヘルパーが在籍。同行援護資格取得のスクールも開校。受講生募集中。

【アイデア部門】

入選 本間 英一郎

コールセンター業務研修・模擬業務体験 働ける実感を体験しよう!

大手コールセンターを運営している企業と提携し、コールセンターにて必要なスキル、電話対応・入力業務・PC操作等の具体的な学習が出来る専門組織を運営し、視覚障がい者のコールセンターでの就労の手助けと、企業側の障がい者雇用促進を促します。

各種機能訓練学校では、PCの音声操作は習得出来ても、具体的に各企業が使用している顧客管理システム等の操作が出来るかどうかは全く不明です。また就労を担保するものではないかと思えます。

まずは関東・関西における大手コールセンター業務を運営する会社と提携し、その企業で使用している実際の顧客管理システムや電話システムを想定した訓練を行う事により、雇用側と就労者側が共にスキルを確認し、具体的に就労可能な訓練や就労体験ができる場を新設したいと思えます。

審査員コメント

視覚障害者の多くは口頭でのコミュニケーションに優れた能力を持っています。その能力を最大限に活用する方法として、企業のコールセンターに目を付けたことが非常に素晴らしいです。ぜひともアイデアを実現していただき、多くの視覚障害者の就労機会を作っていただきたいと思います。期待しています。



本間 英一郎 自営業(引越会社コーチング)

大手引越センターにて、営業、受注業務、クレーム処理等を経験後、ビジネスマナー、電話対応、営業スキルアップなどの社内研修講師やマニュアル作成を手掛けてきました。現在は引越会社のコーチングを受託しています。

【アイデア部門】

入選 近畿ロービジョン研究会

通勤オタスケ隊

通勤に支障をきたしていたり通勤の際に不安をかかえる就業者に対し、通勤経路や通勤時間が同じである「通勤オタスケ隊」を募り、同行援護や見守り、環境整備を行い、通勤による就業の障壁をなくします。

「通勤オタスケ実行委員会」を発足し有志委員を募り実施の計画を練り協議します。

- 「通勤オタスケ隊」に対しての実技指導、通勤経路の環境整備(資金必要)
- 「通勤オタスケ隊」となる個人、所属する企業、組織に対し表彰を行い、行政からの評価(就業、雇用)、社会的評価を模索します。
- 通勤経路や通勤時間が同じである「通勤オタスケ隊」は就業者だけでなく学生であったり、一般からも募ります。

「通勤オタスケ隊」により安全、安心で快適な通勤の確保。社会資源の活用と社会認識をひろげます。

審査員コメント

私もそうですが、ボランティアに参加する事は意外とハードルが高いものです。何をしたら良いのか?返って迷惑を掛けてしまうのでは無いか?など。通勤のアシストと実施内容が明確なところが良いと感じました。



小谷 真弘 視能訓練士

2000年～(現在に至る)北野病院 視能訓練士

2014年「近畿ロービジョン研究会」発足

2015年「神戸ビエンナーレ2015アートインコンテナ国際コンペ」入賞

【アイデア部門】

入選 NPO法人
視覚障がい者ネットワーク コトリナ

だけじゃない 同行援護 DAKEJANAI GUIDE byコトリナ

同行援護は視覚障害者に近い場所で、視覚障害者の生活に潤いと生きがいをもたらす、素晴らしい仕事です。同行援護を「安全な外出」のみに限定することは大変もったいないと思います。同行援護の目的が「外出」のみでなく、歩行訓練への導入であったり、iPhoneの体験であったり、化粧品や洋服のアドバイスであったり。コトリナで同行援護を受けること自体が目的となることを目論んでいます。

同行援護をこれまで受けていないロービジョンの方々をターゲットに。「見えなくて困ったから支援」「安全な外出」DAKEJANAI! プラスワンのガイド。そして、私たちはいっしょに歩くのが大好き。という同行援護の事業所を開こうとしています。

同行援護はできないことを援助するのではなく、できることをより快適に、そして出かけることが「いっしょだと楽しい」ことを知ってもらいたい。これは新しい試みであり、視覚障害者と晴眼者が共に活動し、お互いの気持ちを出し合える場からの発想であり、当事者、地域住民、専門家が楽しく活動しているコトリナでできる仕事と考えています。同行援護を全盲のための支援から、ロービジョンの方へのニーズにも応えられる彩り豊かな仕事になる前例を作っていきたいと思っています。

審査員コメント

同行援護はできないことを援助するのではなく、できることをより快適にするもの、出かけることがいっしょだと楽しいことを知ってもらいたいという塩田さんの発想にはもろ手を挙げて賛成です。塩田さんのプランが実現すると、コトリナの同行援護が使えるなんて、視覚障害者はいいなと健常者からうらやましがられるような事業所ができそうで本当に楽しみです。



塩田 直子 視能訓練士、同行援護従事者、相談支援専門員

2016年4月、東京都多摩地区に設立。同年10月NPO法人認可。サロン、IT教室、英会話などを行う。2018年9月同行援護事業所開設。2018年10月相談支援事業所開設。地域のワンストップサービスを目指している。

【アイデア部門】

入選 株式会社美キャリア

視覚障がい者だからこそその強みを発揮し、 多くの選択肢を持てる社会へ

現在社会的課題として障がい者雇用促進が挙げられています。しかし本来の社会が目指す障がい者雇用が実現されているとは言い難い現状です。そんな中、特に視覚障がい者のキャリアはかなり限定されてしまっています。その要因として視覚障がいの最大の課題は移動とコミュニケーションとされています。それ故に、視覚障がい者が仕事をするうえで、見えない＝何もできないと言った、世間の固定観念こそが若い視覚障がい者の意欲やキャリアパスに影響を及ぼしていると考えています。

しかしながらそのような現状の中でも、大学進学、アメリカ留学、国際機関勤務と自身が望むキャリアパスを歩む視覚障がい者がいるのも事実です。その強みは「情報を取る力」と「情報を与える力」において卓越したコミュニケーションスキルを会得している点がこの強みを活かし、従来にない新たな視点によるビジネススキル教育の場を提供し、企業で就職・転職を希望している意欲が高く、経済的自立していききたい視覚障がい者たちのキャリアパス拡大をレアケースではなく当たり前の社会として目指したいと思います。

審査員コメント

これまであまり意識されてこなかった視覚障害者の「パラバーバル」な情報取得の能力に着目し、それを鍛えることで社会的に優位な人材を育成するという発想が素晴らしいです。視覚障害者の多くが潜在的に有する高いコミュニケーション力を効果的に引き出すメソッドが確立すれば、社会の視覚障害者に対する見方が変わっていくはずで、西村さんのアイデアはとても大きな社会的な意義を持っていると感じます。



西村 由美 株式会社美キャリア 取締役

関西学院大学卒業後、CAの経験を経へ株式会社美キャリア設立。
現在、4才の視覚障がいの娘を持つ。2016年関西学院大学院経営戦略研究科に入学し、2018年MBA取得。在学中、全盲の常理里子と出会い、ビジネスでの有効な手段であることの認知を目的にブラインドコミュニケーション研修を実施している。

【アイデア部門】

入選 前川 浩一

タブレット型ロービジョンサポートデバイス

- ①「高性能カメラ・高画質ディスプレイを搭載したタブレット型モニター」と、
②「①のモニターに外付けする小型高性能カメラ」からなるデバイス。

【①のモニターについて】

既存の「iPad」や「携帯型拡大読書器」の良い点を活かしつつ、「見ること」に特化した、スマートな新デバイス。

具体的には、「iPad」をロービジョンの方用に改良するイメージ。

- 内臓カメラは、向きを可変にし、接写可能、高倍率光学ズーム搭載
- ディスプレイは、拡大しても文字や数字が鮮明な高画質を確保
- 白黒反転等切替は「1押し」で可能
- 情報漏洩や誤解防止の観点から、写真撮影や録画機能は非搭載とします。

【②の外付けカメラについて】

Webカメラのような小型のものであり、①のモニターに接続して使用します。

ビジネスシーンでは、会議時に資料をノートPCからTVやモニターに接続したり、プロジェクターで投影したり、ホワイトボードを使用する場面も多い。その際、これらの被写体にこの外付けカメラを向けることで、手元の①のディスプレイで、被写体を拡大表示して、スマートにモニターできます。

審査員コメント

使いやすさを究極まで追求し、写真撮影をしているのではないかなど、端末をかざすことによる誤解を生まない視覚補助機器が開発されれば、視覚障害者のみならず、ハズキルーペのように高齢者にも人気が出そうです。低価格化を実現し、ぜひ多くの人のもとに届けていただきたいです。



前川 浩一 会社員(経理)

事業会社の経理業務に従事しております。「iPad Pro」を拡大読書器代わりに用い、文字等を拡大して確認しています。

【アイデア部門】

入選 神田 信

合理的配慮を受けやすい環境創り 視覚障害 お仕事お助け隊 創設構想

1. 不足するコンピュータに強い視覚障害者のジョブコーチをコンピュータシステム企業やそのOBに呼びかけ視覚障害者へのジョブコーチ養成、組織化したいと考えています。
2. 勤務中の外出等の移動支援を受けやすい環境を創りたいと思います。

視覚障害者のパソコン環境の整備、トラブル解決を容易にできるようにし、職場においても移動支援も頼めるようにして、視覚障害のハンディを少しでもなくしたいと思います。

これらが整備されれば、視覚障害者の職域は広がり、能力も発揮でき、雇用企業、そして社会にメリットをもたらせると思いますので皆様の協力と工夫で実現したいと思っています。

審査員コメント

現在、企業における視覚障害者の就業上の大きな課題が、社内のコンピュータシステムへのアクセスと移動であるとの神田さんの分析は正鵠を射ていると考えます。そして、そのソリューションの一つとして、企業のコンピュータシステムと画面読み上げソフトの両方に精通したジョブコーチを養成して活用できるようにするというのは大変素晴らしいアイデアですので、ぜひとも実現してほしいです。



神田 信 会社員

網膜色素変性症 株式会社三城勤務 認定NPO法人タートル、JRPS、日盲連（弱視に関する懇談会、移動に関する委員会）で活動。自分の困り事解決を模索し、視覚障害者のQOLの向上、その人らしい仕事、生活につなげることができたらと夢を描いている。

【アイデア部門】

入選 水野 友美

水引で新たな可能性 ～視覚障害者の職域拡大、そして自立へ～

昨年の10月に神戸アイセンターで行われた水引き体験に参加しました。それまで水引きを作ったことはありませんでしたし、「そもそも水引きってなんだろう?」と思っていました。

実際に作ってみて、とても細かく苦戦はしましたが、弱視である私は拡大読書器を使うなどして、他の方達も指の感触だけで完成させていました。水引きは、いろいろな色の組み合わせで雰囲気や印象ががらりと変わりますし、デザインも多種多様でアクセサリーや小物も作ることができます。

その後、水引きの先生やアイセンターの方から「水引きをもっと学んでみないか?」とお声がけをいただき、今後どのように展開していくか考えました。私自身、物作りは好きなので、今後も水引きをアイセンターで継続的に習い、いろいろなものが作れるようになったらネット販売を中心に販路を広げ、自立生活ができるように生計を立てていきたいと考えています。いま現在、視覚障害者の職域はたいへん狭く、なかでも女性の視覚障害者は安心して働ける場所が少ないです。将来的には、そういった方々に自ら作り方を広めていき、自立できるように支援していきたいです。また、日本の文化に関心が薄れている若者や、逆に興味のある海外の人達にも伝えていけると思っています。

審査員コメント

視覚障がいの方 ならではの手の感覚の良さを活用される 良いアイデアと思いました。



水野 友美 パート / CILボランティア

物心のついたころより視覚に障害のある弱視です。

【アイデア部門】

入選 大窪 美緒

Kahei&Kaunto

病院では、毎日大量の貨幣が使用されています。例えば、レジ清算、患者専用の洗濯機や乾燥機のコインランドリー、公衆電話等です。病院の会計担当者は、毎日病院で回収された貨幣のカウントを行なっていますがこの作業が最も重労働です。よって、この問題を解決するアイデアを提案します。

通常、貨幣の計算は機械と手作業との二重チェックを行います。まず、初めに健常者が病院内で貨幣を回収しカウントしなければならない金種を振り分けます。次に、目が見えにくい方が手作業で貨幣をカウントするのです。

このように行う事で、会計担当者の労務の負担も軽減され、目が見えにくい方の雇用も生まれるのです。

社会には、全盲の方や少し目が不自由な方など、人によって目が不自由な度合いは様々ですが、どのような方でも楽しく働ける社会であってほしいと私は思っています。

審査員コメント

単純なアイデアですが、貨幣の手作業のカウントを視覚障害者にやってもらうというのはいいアイデアだと思います。ただ、現実的には貨幣分別カウント機があるので、どれだけニーズがあるのか不明ですが・・・。



大窪 美緒 病院事務

大学を卒業後、秘書等の事務職を務めている。
「ご縁を大切に」をモットーに仕事を頑張っている。休日は、旅行に行ったり、医療関係のイベントで様々な方にインタビューを行ったりしてお出掛けしている。

【アイデア部門】

入選 Nail Le Braille

仕事の選択肢をマッサージやパソコンから販売へ!!

視覚障がい者の仕事と言うとマッサージかパソコン、特に女性であれば保母さんや看護婦さん、メイクさんやネイリストなど憧れの職業は沢山あると思います。

ですが障害があることでそれらを諦めた方は多いのではないのでしょうか？

社会の固定概念により、目が見えないのだからここまでしかできないという可能性に蓋をされているのではないのでしょうか？

そこで、当店ではイベント出店時に視覚障がいを持った当事者自身に、販売員としてブースに立って頂き、当店で扱うネイルオイルや爪磨きなどプロ用品の販売をして頂きます。

お客様とコミュニケーションをとりながら当事者の立場で美容に関するアドバイスができます。

一つ一つの商品をラッピングして点字やシールを貼って判別することで、受け渡しの間違いをなくします。

まだ単発での雇用しか出来ていませんが、将来的には長期的な雇用を目指します。

障害の有無を問わない職業へ進出できることを社会にもアプローチできます。

審査員コメント

視覚障害者がネイルサロンでビューティアドバイザーとして働くという提案です。近年お化粧品など、視覚障害女性の美に対する支援の仕方に対する様々な提案がなされていますが、当事者よりアドバイスを受ければ、さらに視覚障害なりの工夫が受け入れられると考えられます。雇用につながるように願っています。



佐藤 優子 JNECネイリスト技能検定試験1級、
JNEジェル検定試験上級、ネイル衛生管理者

全国ネイルアートコンテスト2017 最優秀賞、全国ネイルアートコンテスト2016 入選
SAITAMA smile woman ピッチ優秀賞

お客様にこのお店で働きたいと思って頂けるお店を目指します。

【アイデア部門】

入選 山本 潤

心の芽で世の中を動かす

新芽と枯葉はまるで別の感触、そんな感触も聴くと触るとでは全く違います。いい香りがするものから臭いもの、柔らかいものから硬いもの、ツルのものや刺のもの、いろいろな植物があります。

視覚だけに頼らなくても、嗅覚、味覚、触覚、聴覚を使い様々な植物と触れ合うことができるため、見たこと触ったことない人にも実際に触って、植物は生き物だとゆうことを改めて感じてもらいたいです。種まきから収穫までを体験して、視覚だけに頼らない収穫、技術の習得をし、最終的には商品として販売し、世の中の多くの人にロービジョンの人達の潜在能力や、可能性を知ってもらいたいです。

このことが企業へのアプローチにつながり、ロービジョンの人達の雇用が増えることを期待したいです。社会に支えられる側から、支える側に、社会の戦力へシフトしていき、ロービジョンの人達の困難や、これまでの努力を理解してもらい、最終的な目標として、中途視覚障害者等級の格上げのきっかけにしていきたいです。また、将来、視覚障害者の子どもたちの就職の選択肢が広がっていくよう働きかけをしたいです。

審査員コメント

造園業という仕事を生かして、視覚障害者だけでなく、子供やお年寄りまで様々な方に園芸に取り組んでもらうというのはとても良いアイデアだと思います。私のように園芸の知識を全く持ち合わせていない者が、種まきの仕方から教えてもらって育てていく楽しみを味わえたら、とても価値のあることだと思います。収益につながるまでに長い期間がかかると思いますが頑張してほしいと思います。



山本 潤 造園業(庭師)

現在まで緑化に伴う事業を行っており国内外問わず庭園管理、設計施工。
2018年7月工作中不慮の怪我により中途障害となる。

【アイデア部門】

入選 MDSiサポート

音声コードを活用した情報バリアフリー

音声コードUni-Voiceを使い読む事が苦手の人全ての人の情報保証を実現します。2次元バーコードUni-Voiceと専用アプリを使ってスマートフォン・タブレットや携帯電話に読ませることによって見えない・見えにくい・読めないを克服することが可能になります。

活字が印刷される資料などには必ず音声コードが入っていてくれさえすればもう困ることは無くなるかと考えます。読むバリアフリーを実現させるための大きな近道ではないでしょうか。

公文書には義務化し民間企業にも努力義務を目標に全ての書類に音声コードが付いてくれると、視覚障害があっても職場で困ることが減らせるのではないかと思います。

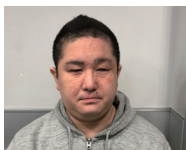
見える方は見た方が効率的です。見えない・見えにくい方に見ることを前提とした情報を提供するのとは問題外です。

Uni-Voiceコードを印刷するのも手間がかからず簡単です。

会社だけでなく世の中に音声コードがあふれるようになれば今以上に視覚障害者などの文字を読みにくい方々が情報に気軽に接せるようになると良いなと考えております。

審査員コメント

チャレンジが活躍するには、最高の、最新のICTが必要だということを実感していますが、重要なのは「どう使うか」ということです。井上さんの「活字が印刷される資料は必ず音声コードを入れる」というご提案は、誰でもがカメラ付きのスマホなどを持つ時代にあって、時期を得たものと思います。このアイデアがオールジャパンで取り組まれるよう、私も努力したいと思います。



井上 直也 公益社団法人 東京都盲人福祉協会 青年部 理事
・認定NPO法人タートル・片目失明者友の会・パソコンボランティア青梅

高校卒業後企業で8年間営業職を務め、4年間飲食店勤務。
2014年に両目とも網膜剥離の診断を受け、右目は失明していた事が判る。現在は全盲。
2016年に視覚障害者向けのiOSのプライベートレッスンを開始。同年MDSiサポートを開業。
現在はiOSを用いたデジタルロウビジョンケアを行っている。